

令和８年度第１回林業アカデミーふくしま運営会議 結果概要

- 1 日 時 令和８年８月２５日（火）１３：３０～１５：３０
- 2 場 所 林業アカデミーふくしま大講義室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 結 果 （各委員意見）

○短期研修について

- ・市町村林務担当者には、森林・林業の基礎知識や森林経営管理制度等を十分に理解しないまま業務を担当する場合もあるため、初学者向けの研修を継続的に実施する必要がある。加えて、受講実績からも一定のニーズがあるため、「森林・林業の基礎」や「森林経営管理制度」の研修を年２回程度実施することについて、検討してはとの意見があった。複数回実施することで、県職員が講師を務める機会が増え、県職員の資質向上も期待できる。
- ・Web による聴講を可能とした研修について、全参加者の３割を超える受講実績があった研修もあることから、今後も Web 聴講が可能な研修の拡充を検討していく必要があるとの意見があった。
- ・森林所有者向けの研修についても必要性が指摘された。森林・林業に関わりのない所有者は山への関心が低く、近年は材価の低迷等により森林経営に後ろ向きになっている。しかし、若い森林所有者向けに、森林を相続したらどうすればいいのかなど税制を説明する研修を実際に行った際には、好意的な反応があった事例が紹介された。

○就業前長期研修「国有林施業に関する講義」について

- ・国の取組を県の研修で紹介することには一定の意義があるとの意見があった一方、国有林では業務の多くを外注している現状もあることから、具体的な施業内容までを研修に組み込む場合には、国側と講座内容を丁寧に調整する必要があるとの意見があった。

○就業前長期研修生確保に向けた取組について

- ・研修生の確保に向けて、研修生・修了生へのアンケート結果から、知人・親からの紹介や、身内に林業関係者がいることが入講のきっかけとして多いことが確認された。こうした結果を踏まえ、これまで広告等による周知を行ってきたが、現状の広

告手法については、さらなる工夫が必要との意見があった。特に、芸能人の起用など、よりインパクトのある広告を検討してはどうかとの意見があった。

- ・また、長期研修への関心が低い林業事業体に対しては、採用１年目の従業員を「緑の雇用事業」に参加させる場合と比較し、長期研修ではより幅広い知識や技術を身につけられることをメリットとして周知することが、研修生の確保につながるのではないかと意見があった。

○その他

- ・研修生を受け入れ、修了・就職まで一律に進めるのではなく、研修生の技術力や適性を見極めた上で、雇用者側が安心して受け入れられる人材を育成することが重要との意見があった。事務局としても、入講後も日々の研修や面談を通じて、指導の平準化や研修生の技術力向上に努めていると説明を行った。
- ・今年度、事務局で試行的に実施している研修生のチェーンソー伐木技術の評価について、結果を取りまとめ、次回の運営会議において報告することとした。

以 上